

【第144回生涯教育講座】

急増している非結核性抗酸菌症の診断と治療

いそ 儀 べ 部 たけし 威

キーワード：Nontuberculous Mycobacterial Disease, Diagnosis and treatment

要 旨

結核の罹患数、死亡数が減少傾向にあるのに反して、非結核性抗酸菌症 (Nontuberculous Mycobacterial Disease, 以下 NTM 症) は罹患数、死亡数共に増加している。疫学調査では NTM 症の罹患率は2014年に結核を超えたことが報告され、死亡数は2021年に結核を上回りさらに増加し続けている。NTM は自然環境やヒトの生活環境中に常在しており、感染経路は環境曝露からのエアロゾルが主体となる。NTM の発症には宿主因子が関与しており、高齢、低体重、胸郭異常、免疫抑制剤使用、気管支拡張症、COPD、肺癌、関節リウマチ、胃食道逆流症などがリスク因子として知られている。画像上は、結節性陰影、小結節性陰影や分枝状陰影の散布・均等性陰影・空洞性陰影・気管支または細気管支拡張陰影のいずれかの所見（複数可）を示す。NTM の確定診断には起炎菌の分離、同定と培養陽性であることが必要となる。治療に際し、薬剤感受性検査では、クラリスロマイシンとアミカシンの薬剤感受性を確認することが重要となる。NTM は環境生息菌であるため、典型的な画像所見に加えて、細菌学的な診断基準を満たす必要がある。肺 MAC 症の治療は、マクロライド系薬+エタンブトールが主体となり、適切な治療を6カ月以上行っても喀痰培養で排菌陰性化が達成されない場合、吸入アミカシンリポソーム製剤 (ALIS) を使用する。現時点で、NTM 症は呼吸器のコモンディーズとして診断、治療に臨む必要があり、症状が乏しくても、診断基準に合致する NTM 症については、十分な経過観察を行う必要がある。疫学的な統計について、結核は感染症法により患者発生届け出が行われるため、正確な疫学情報が得られるのに対して、NTM 症に関しては、診断基準に合致する患者数の正確な疫学情報は得られないため推計値にならざるを得ない点については、今後の検討課題である。

はじめに：

Takeshi ISOBE

島根大学医学部内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学

連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部内科学講座 呼吸器・臨床腫瘍学

結核の罹患数、死亡数が減少傾向にあるのに反して、非結核性抗酸菌症 (Nontuberculous